

人、森、絆、地域が子どもたちの先生だ

金森町の金神社を拠点に、夏休みのラジオ体操や鎮守の森^{※1}の林間学校、こども農園の野菜栽培など、子どもたちのための活動をしている市民団体「エイブラハム林間学校」代表の高田 満彦さん取材しました。

エイブラハム林間学校代表
高田 満彦さん



エイブラハム林間学校 高田 満彦さん（金森町）
たかだ みつひこ

エイブラハム林間学校の誕生

金森町の金神社は、白鳳時代（7世紀後半〜8世紀初頭）に建立された歴史ある神社です。長い年月をかけて、地域の人たちの営みを見守ってきました。

高田 満彦さんと地域の子どもの交流は、約30年前、神社で行われる「夏休みラジオ体操」から始まりました。夏休みも規則正しい生活をしてほしいと紙芝居を見せ、終わった後には缶けりなど体を動かす遊びを見守るようにしたそうです。その活動は今も続いています。

金神社では10年ほど前まで夏になると合宿が開かれ、近所の子どもたちは、一緒に遊んでもらったり交流したりするのを毎年楽しみにしていました。そ

鎮守の森で子どもと地域を育む林間学校

エイブラハムが夏休みに開催する林間学校では、子どもたち

は拜殿で勉強し、鎮守の森で遊びます。境内のかまどで温めたレトルトカレーを、手伝いに来たエイブラハムのOB・OG（中高生・社会人の有志）や地域の高齢者、保護者も混じって皆で食べ、その後はテーブルゲームも。神社には、朝から夕方まで子どもたちの元気な声が響いていました。

エイブラハムは、近所の遊休農地を借りて4年前に「こども農園」を始めました。畑仕事を得

の合宿がなくなり、子どもたちはがっかり。それを見て立ち上がったのが、かつて小中学校の教員として働き、定年後も大学で地域コミュニティの研究をしていた高田さんでした。地元の協力者に頼み、境内で林間学校を開く計画をしました。

ところが、「林間学校」という言葉を知らない子どもから「リンカーン大統領^{※2}の学校？」という返事が返ってきました。それを聞いた高田さんは驚くやら面白いやら、この言葉がすっかり気に入ってしまいました。そこで活動団体の名前を「エイブラハム林間学校（以降、エイブラハム）」と名付け、平成23年に、夏休みの林間学校を始めたのです。

意な地域の高齢者が先生になり、皆が集まって種まきや収穫をします。子どもたちは普段から学校帰りなどに、自主的に水やりに立ち寄り、収穫した野菜は分け合って家庭へのお土産に持ち帰るそうです。

伝統行事の「左義長^{※3}」も、子ども会から引き継ぎました。地域を回って古いお札や正月飾りを預かる時に、農園で収穫した野菜を配ると喜ばれ、「お志^{※4}のお菓子などが増えたそうです。

林間学校を手伝うOB・OGは「林間学校は夏休みのビッグイベントで思い出もたくさんあるし、お世話になった。何より楽しいから、できる限り手伝いたいと思っています」と話していました。

高田さんは「エイブラハムは地域の活動ですが、絆の種をまき育てる方法をもつけた子どもたちは、きっと将来、この地域を大切に思ってくれます。故郷を離れても絆をつなぐ力がある。子どもたちのための活動が、強い地域コミュニティをつくる礎になると信じています」と語っていました。



社務所でゲーム



まきを集めてお屋の準備



林間学校



拜殿で勉強



鎮守の森で遊ぶ



保護者も高齢者と一緒に



みんなで食べるカレーライス



こども農園



ラジオ体操



みんなで収穫作業

※1 神社に不随して境内や周辺を囲むように存在し、古くから神聖な場所として守られてきた森（社）
※2 エイブラハム・リンカーンは、奴隷解放などアメリカ史に大きな業績を残した第16代大統領。偉人として後世に知られている
※3 正月飾りや古いお札などを燃やして一年の無病息災などを祈願する伝統行事